教育学研究科 教職実践開発専攻（教職大学院）

学校管理職養成コース

学校管理職臨床実習

（小・中・高校籍）

手引き

２０２５年　４月

岐阜大学教職大学院

学校管理職臨床実習

全体編

「学校管理職臨床実習」の全体像

1 「学校管理職臨床実習」の目的

学校マネジメント力を有した自律的及び協働的な学校経営ができる管理職を目指し、教育行政機関や指定校において、指導主事・管理職の職務内容やその行動様式の分析・考察を行う実習を通して、岐阜県の未来を担う「理論を兼ね備えたリーダー」としての実践力育成をねらいとする。

2 「学校管理職養成コース」の２年間の履修イメージ

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="4">M1</th><th colspan="2">M2</th></tr>
<tr><th colspan="2">前期</th><th colspan="2">後期</th><th>前期</th><th>後期</th></tr>
<tr><td rowspan="3">学校管理職養成</td><td>必修／選択科目</td><td colspan="2">講義</td><td colspan="2">講義</td><td>講義（金曜日）</td><td>講義（金曜日）</td></tr>
<tr><td>臨床実習</td><td colspan="2"></td><td>教育行政実習</td><td colspan="2">学校経営実習Ⅰ</td><td colspan="2">学校経営実習Ⅱ</td></tr>
<tr><td>開発実践報告</td><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="4">開発実践報告</td><td colspan="2">開発実践報告</td></tr>
<tr><td colspan="4">ゼミ（随時）</td><td colspan="2">ゼミ（金曜日）</td></tr>
</table>

3 「臨床実習」の種類

種　類	単位数（時間）	実習時期	実　　習　　先	実習の特性
教育行政実習	３単位 （90）	１年次 ８月～９月	教育委員会及び関係機関 （県・市町村）	ヒアリング実習 インターン実習
学校経営実習Ⅰ	３単位 （90）	１年次 10月 １・２月	異校種観察（大学で指定） 指定校（教育委員会との協議のうえ決定）	ヒアリング実習 シャドーイング実習 メンタリング実習
学校経営実習Ⅱ	４単位 （120）	２年次 ４月～10月	勤務校	インターン実習 （職務遂行能力の開発） 学校課題解決実習

4 「臨床実習」の指導体制

１　チームによる指導

「学校管理職臨床実習」の指導はチームで行う。このチームは、大学教員、実習先のメンターティーチャーで構成する。

一人の実習者に対して、組織的な指導を行う。大学教員は実習記録を通して指導を行いつつ、現場指導に当たるメンターティーチャーとともに実習の展開状況を把握する。それぞれの実習を終えた段階ごとに報告会を実施する。

役割は、原則以下のとおりとする。

	実習指導担当者	役　　割
大 学	大学教員 （研究家教員） （実務家教員）	実習者の実習に対する問題意識や課題に関する指導、確認を行う。 ・実習先との連絡調整 ・実習記録へのコメント記述（指導） ・実習先での報告会指導 ・大学での報告会指導
実習先	メンター ティーチャー	実習先の現場職員がメンターティーチャーとなり、実習者の直接の指導を日常的に担当する。

２　「臨床実習」指導の基本的な手続

（ア）　オリエンテーション（事前指導）

大学教員が、実習者の実習に対する問題意識や課題を確認するとともに、個別の実習計画書の作成、自己省察のためのポートフォリオ等の資料の蓄積及び活用の在り方を指導する。

（イ）　実習先との打ち合わせ

実習者は、メンターティーチャーと実習に関わる打ち合せを行う。実習の説明については、原則、事前に大学教員が実習先に出向き説明をする。

（ウ）　実習指導

大学教員は、実習記録の朱書きを通し、実習状況を把握するとともに指導を行う。

（エ）　実習成果の発表

実習の終了後には、実習記録と報告書をもとに報告会・成果交流会を行う。（実習機関及び大学）

（オ）　実習の評価

実習評価票（後載）に基づき、実習内容の理解、実習の意欲・態度、実習成果等を実習機関（所属長・メンターティーチャー）で評価を行う。加えて実習記録・報告書・大学での報告会（成果交流会）等を踏まえて実習担当大学教員の協議を経て単位認定を行う。

学校管理職養成コース・２年間の臨床実習構想

１年次

●学校経営実習Ⅰ（10 月、1・2 月）
90h（3 単位）

異校種観察

・義務教育学校、学びの多様化学校などの特色ある学校経営の理念や実践を観察し、経営発想や企画力の向上を図る。

教頭職に求められるコンピテンシーの考察Ⅰ

・モデル教頭の行動様式をシャドーイング実習
・行動の背景となる意図のヒアリング実習

●教育行政実習（8・9 月）90h（3 単位）

教育行政の仕組みや役割、指導主事に求められる資質・能力の考察

・指導主事の職務行動を部分体験実習
・指導主事職務や使命のヒアリング実習

２年次

●学校経営実習Ⅱ（4～10 月）120h（4 単位）

教頭職に求められるコンピテンシーの考察Ⅱ

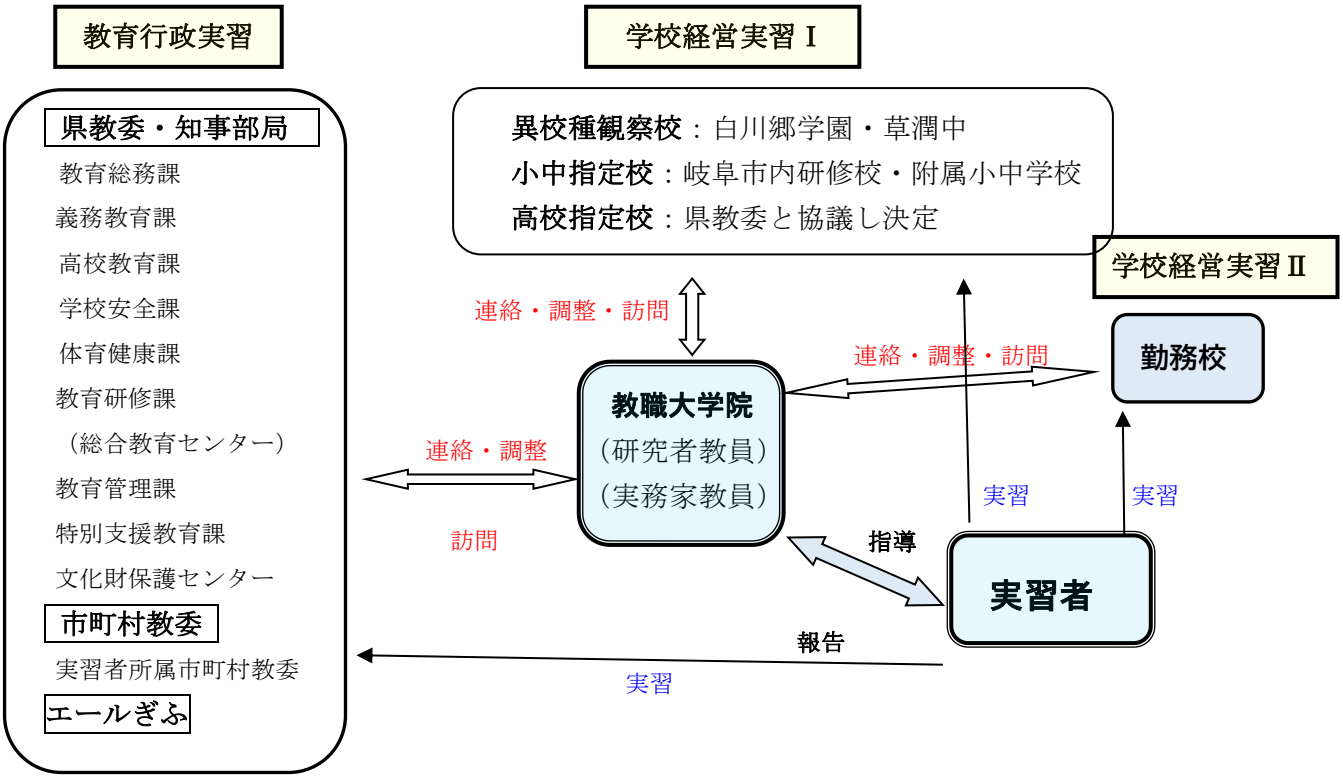
・メンター教頭から学ぶ職務実習
・勤務校における課題解決実習
・校長と教頭の違いの考察

職能開発　開発実践テーマ追究

学校管理職養成コース（小中・高校籍）実習概要

種類・時期等	実習形態・内容	実習機関等
教育行政実習 (8 月～9 月) 90h：3 単位	**●ヒアリング・インターン実習** ・教育行政職の基礎的業務について、ヒアリング・インターン実習等を通し、指導主事の行動様式、職務内容を理解し、指導主事に求められる資質・能力を探る。 ・実習での実践知を基に履修した教育政策の理論について、更に認識を深める。	**■岐阜県の行政機関** 県教委各課ヒアリング 指導主事職務インターン ＜小中籍＞初任者研修　6 年目研修　＜高校籍＞初任者研修　6 年目研修、教育課程講習会、文化財保護センター **■市町村の行政機関** ＜小中籍＞　派遣元市町村教委 **■複合型の行政機関** エールぎふ（岐阜市子ども・若者総合支援センター）
学校経営実習Ⅰ (10 月、１月～２月) 90h：3 単位	**●シャドーイング実習・特色ある学校経営観察** ・特色ある学校経営の理念や実践を観察し、経営発想や企画力の向上を図る。 ・指定校のモデル教頭の日常行動をシャドーイングするとともに、行動の意味をヒアリングし、職務内容を理解する。 ・モデル教頭の行動様式や行動意図を分析し、教頭職務のコンピテンシーを考察する。	**■特色ある経営学校** 義務教育学校（白川村立白川郷学園） 学びの多様化学校（岐阜市立草潤中学校） **■指定校** ＜小中籍＞　岐阜市内研修校　附属小中学校 ＜高校籍＞　県教委が指定する学校
学校経営実習Ⅱ (4 月第 1 週～10 月最終週) 120h：4 単位	**●インターン実習** ・勤務校のメンター（主席教頭）に学びながら教頭職務インターン実習を行い、職務遂行能力を高める。 ・勤務校の課題を抽出し、解決策の立案と実践を進め、職務遂行能力を高める。 ・職能開発での実践知を基に、校長職・教頭職のコンピテンシーを考察する。	**■勤務校** ２年目に実習者が勤務する学校

＜連携連絡体制＞


教育行政実習
学校経営実習Ⅰ
県教委・知事部局
教育総務課
義務教育課
高校教育課
学校安全課
体育健康課
教育研修課
（総合教育センター）
教育管理課
特別支援教育課
文化財保護センター
市町村教委
実習者所属市町村教委
エールぎふ
異校種観察校：白川郷学園・草潤中
小中指定校：岐阜市内研修校・附属小中学校
高校指定校：県教委と協議し決定
学校経営実習Ⅱ
連絡・調整・訪問
連絡・調整・訪問
勤務校
教職大学院
（研究者教員）
（実務家教員）
連絡・調整
訪問
実習
実習
指導
実習者
報告
実習

教育行政実習

3 単位

(90 時間)

教育行政実習構想

90 時間：3 単位

指導主事に求められる資質・能力
教育行政の役割、学校管理職との連携
複合型支援機関の現状、学校との連携

・教育施策の必然や背景の理解
・職務遂行の実情や問題点の理解
・指導主事職務遂行の部分体験

・実習課題の把握
・実習目的の明確化

報告書作成

実習の分析と考察

各機関でのインターン実習

オリエンテーション

実習機関リサーチ

課題提供

・教育行政についての認識の深化
・指導主事の行動様式、職務内容の理解

報告会
大学：成果交流・グループワーク
市町村教委：実習報告会（小中籍）

＜事中・事後指導＞
・実習記録、報告書の確認
・実習の分析と考察の指導助言
・実習機関での報告会に参加指導

＜県教委・市教委・エールぎふで現地指導＞
県・県教委でのヒアリング
・教員研修講座等の場で研修運営の部分体験
市・各市町村の教育ビジョンや施策のヒアリング
・学校訪問指導体験、議会対応の観察
エ・複合型支援機関の機能や役割のヒアリング
・支援活動の部分体験

・リサーチ交流
・分析と考察の指導

＜事前指導＞
・実習課題（目的）の設定
・実習機関リサーチ指導

＜実習機関への依頼と説明＞
・行政実習の趣旨
・リサーチと実習計画
・実習評価の説明

学校管理職養成コース（小中学校・高校籍）教育行政実習　実施計画例　90h（3 単位）

No	研修名	研修場所	研修内容	研修の重点				
				企画	観察	理解	考察	プレ
1	オリエンテーション	大学院	実習の意義、指導主事の職務と行動様式の概要把握	○		◎		
2	実習計画の作成	大学院・実習機関	各機関の概要把握とインターン実習計画作成	◎		○		
3	実習機関リサーチ	各実習機関	各実習機関での実習内容の調整	○		◎		
4 ｜ １３	インターン実習 岐阜県の行政機関 市町村の行政機関 総合型の行政機関	県文化財保護センター（高）	県の文化資源の保護と啓発の部分体験実習 ・教員研修会、出前授業等の企画や運営	◎				○
		県教委ヒアリング（小中・高）	県教委の職務内容と問題対応のヒアリング実習 ・教育総務課、義務教育課、高校教育課、教育管理課、学校安全課、体育健康課、特別支援教育課の職務			◎	○	○
		県教委インターン（小中・高）	県教委による教員研修システムの部分体験実習 ・教育課程講習会の準備と運営（高校籍） ・初任者研・６年目研の準備と運営（小中・高校籍）	◎		○		○
		市町村教委（小中）	地教委の機能と役割、職務形態の部分体験実習 ・教育長講話、各市町村の課題と教育ビジョン ・学校管理訪問、人事管理、議会対応 ・施設（図書館、科学館等）の運営　　等		◎	○	○	
		エールぎふ（小中・高）	教育・福祉・医療等の総合的支援の部分体験実習 ・総合的支援体制の運営と管理 ・虐待対応などの支援の実情 ・自立支援教室等の施設で支援活動　　等		◎	○	○	
１４	分析・考察	関係機関等	教育行政の仕組みと役割、指導主事に求められる資質・能力の考察	○			◎	
１５	全体報告会	教職大学院	教育行政職実習の成果報告・討論			◎	○	◎

様式学管Ⅰ－１

教 育 行 政 実 習 計 画

学籍番号		実習者氏名	

教　育　行　政　実　習　【一年次】				
事前	＜事前指導＞　　月　　日（　）2 時間　　月　　日（　）2 時間			
月	日	曜	実　習　内　容	実習場所
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
	事後	＜成果交流会（大学）＞11月　日（　）6時間　　・90時間以上を確保　【総時間数　　時間】		

様式学管Ⅰ－２

教 育 行 政 実 習 記 録

月　　日　　曜日	実習者【　　】　　実習場所【　　】
本日の実習課題	
実　　習　　内　　容	
・実習内容を簡潔に記述	
課題についての分析・考察等	・観察記録で終始せず、分析・考察を記述 ・実習後、速やかに大学担当教員に提出
指導教員（大学教員）コメント	

（記入に当たって）　各実習機関で作成

※青の部分は実習者が記入して準備。　　様式学管１

令和〇〇年度　　学校管理職臨床実習

教育行政実習評価票

岐阜大学教職大学院

M1	氏　名	〇　〇　〇　〇	専攻	教育学研究科教職実践開発専攻（教職大学院）
実習機関		〇　〇　〇　〇		
実習期間		令和〇〇年〇月〇〇日（〇）　～　令和〇〇年　〇月〇〇日（〇）		
総出席日数　（　〇　）日（　〇　）時間			遅刻回数（　0　）回（　0　）時間	
欠席日数　（　0　）日（　0　）時間→通常はゼロを記入			早退回数（　0　）回（　0　）時間	

実施した実習等の時数	実習内容を記入	〇　時間
		時間
		時間
		時間
	合　計	〇　時間
提出物確認	□臨床実習報告書	

所見	・メンターティーチャーで　記入をお願いします。 ・「特記事項なし」または「意欲的な実習ぶりであった」程度の短いコメントで結構です。

種別		評　価　要　素	評　定
教育行政	1	教育行政把握力	S　A　B　C　D
	2	教育行政実務能力	S　A　B　C　D

総合評価	S（秀）	A（優）	B（良）	C（可）	D（不可）	メンターティーチャー	〇　〇　〇　〇

※2 項目の評価と総合評価をお願いします。

岐阜大学教育学研究科　教職実践開発専攻代表　様

以上のとおり評価しましたので報告します。

令和　〇　年　〇　月　〇　日

認印・公印は必要なし

お名前等はゴム印でも可

機関名　〇　〇　〇　〇

代　表　〇　〇　〇　〇

以下は大学で記入

＜判定＞上記の臨床実習について次のとおり判定する。（S、A、B、C は単位認定、D は単位認定不可））

判定	S（秀）　A（優）　B（良）　C（可）　D（不可）	（所見）

機関評価を参考に、大学での報告会の様子等を加味して、大学側で最終評価を行います。

大学担当教員＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

評価基準（教育行政実習）90ｈ：3 単位

	S	A	B	C	D
教育行政把握力	教育行政の役割や機能を的確に理解し、指導主事に求められる使命を多面的に考察できた。	教育行政の役割や機能を理解し、指導主事に求められる使命を考察できた。	教育行政の役割や機能を理解し、指導主事に求められる使命を概ね理解できた。	教育行政の役割や機能を概ね理解できた。	教育行政の役割や機能の理解が不十分であった。
教育行政実務能力	指導主事の職務内容を的確に理解・分析し、実務に関わる行動様式を多面的に考察できた。	指導主事の職務内容を理解し、実務に関わる行動様式を考察できた。	指導主事の職務内容が理解できた。	指導主事の職務内容を概ね理解できた。	指導主事の職務内容の理解が不十分である。

学校経営実習Ⅰ

3 単位

(90 時間)

学校経営実習Ⅰ構想

90 時間：3 単位

実習Ⅱ　インターン教頭として職能開発実習

実習報告会

大　学　成果交流、ワークショップ
指定校　教頭の行動様式の分析結果を報告

モデル教頭の職務行動分析
↓
・教頭に求められるコンピテンシー
・次年度（インターン教頭）の
ビジョン設定

実習の分析と考察

＜事中・事後指導＞
・実習記録、報告書の確認
・実習の分析と考察の指導助言
・実習機関での報告会に参加指導

・指定校の経営計画リサーチ
・教頭の職務行動シャドーイング
・教頭の行動意図メンタリング
・校長の経営理念メンタリング

シャドーイング実習

＜異校種学校・指定校での現地指導＞
・異校種　義務教育学校：白川郷学園
　　学びの多様化学校：草潤中学校
・小中　指定校 10 校（各校 1 名で実習）
・高校　指定校 3 校（各校 1 名で実習）

実習機関リサーチ

・実習課題の把握
・実習計画の明確化

オリエンテーション

＜事前指導＞
・実習課題と教頭職務行動の概要

実習課題

モデル教頭の校長補佐・校務整理行動の観察
モデル教頭の行動特性（コンピテンシー）の考察

＜実習機関との連携＞
・指定校への趣旨説明（小中・高）
・異校種学校との打合せ

大学の指導

学校経営実習Ⅰ　指定校でのシャドーイング・ヒアリング実習例

	9:00		12:00				17:00
1	校内巡視 職員の出勤把握 児童生徒の状況確認握 職員打合せ	校長より 「年度末の経営」 教頭より 「実習留意事項」	書類作成事務 ＰＴＡ等の渉外 授業巡視や職員指導	記録	職員会等の会議		教頭の職務行動 ヒアリング
2	校内巡視 職員の出勤把握 児童生徒の状況確認握 職員打合せ	校長との打合せ 「次年度構想」 「クレーム対応」	書類作成事務 教委等外部機関の渉外	記録	研究授業参観 授業研究会での職員指導 授業者への個別指導		教頭の職務行動 ヒアリング
3	校内巡視 職員の出勤把握 児童生徒の状況確認握 職員打合せ	情報交流 養護教諭 事務職員 校務員　　等	学校行事を参観し職員や児童生徒の行動把握	記録	職員指導 保護者対応		教頭の職務行動 ヒアリング
4	校内巡視 職員の出勤把握 児童生徒の状況確認握 職員打合せ	学校保健安全委員会準備	書類作成事務 クレーム等の対応 校長へ報告	学校保健安全委員会の進行	記録	調査書委員会で職員指導	教頭の職務行動 ヒアリング
5	校内巡視 職員の出勤把握 児童生徒の状況確認握 職員打合せ	校長より講話 「経営構想と教頭の役割」 「教頭に求められる資質・能力」	給食指導 生徒指導 次年度の構想作成	記録	教頭より講話 「教頭等として留意していること」 「校長との連携、教職員指導のあり方」		

＊実習５日間は連続である必要はない。指定校管理職と相談のうえ決定する。

学校管理職養成コース（小中学校・高校籍）学校経営実習Ⅰ　実施計画例　90h（3 単位）

No	研修名	研修場所	研修内容	研修の重点				
				企画	観察	理解	考察	プレ
1	オリエンテーション	教職大学院	実習の意義、教頭の職務内容と行動様式の概要把握	○		◎		
2	異校種観察実習	義務教育学校 学びの多様化学校	学校経営理念と仕組み、管理職行動の観察・ヒアリング実習		○	◎		○
3	指定校リサーチ１	指定校	指定校の学校課題と学校経営計画のヒアリング			◎	○	
4	指定校リサーチ２	指定校	指定校実習の計画作成と日程調整	◎			○	
5	指定校実習１	指定校	モデル教頭の職務内容と行動様式シャドーイング ・行動様式の背景となる理念や判断、躊躇等のヒアリング ・校長の経営プラン、教頭に求める行動様式等ヒアリング ・教頭行動による職員への啓発や波及効果のヒアリング		◎	◎	○	
6	指定校実習２	指定校						
7	指定校実習３	指定校						
8	指定校実習４	指定校						
9	指定校実習５	指定校						
１０	指定校実習考察１	指定校等	教頭の職務内容、行動様式、求められる資質・能力の考察	○			◎	
１１	指定校実習考察２	指定校等	教頭の職務内容、行動様式、求められる資質・能力の考察	○			◎	
１２	指定校報告会	指定校	教頭の職務内容、行動様式、求められる資質・能力の報告	○				◎
１３	分析・考察１	研究室・指定校等	シャドーイング・ヒアリングから教頭職コンピテンシー考察	○			◎	
１４	分析・考察２	研究室・指定校等	シャドーイング・ヒアリングから教頭職コンピテンシー考察	○			◎	
１５	全体報告会	教職大学院	実習の成果報告・教頭職コンピテンシーについて討論			◎	○	◎

様式学管Ⅱ－１

学 校 経 営 実 習 Ⅰ 計 画

実習者		異校種	草潤中学校・白川郷学園	指定校	学校

学　校　経　営　実　習　Ⅰ				
	事前	異校種観察実習　草潤中学校　　月　日（木）４時間 白川郷学園　　月　日（木）６時間 事前指導　　月　日（　）１時間・　月　日（　）：2時間		
月	日	曜日	実　習　内　容	実習場所
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			（　　時間）	
			指定校報告会　（１時間）	
	事後	3月　日（　）成果交流会（大学：４時間） 【総時間数　　時間】		・90時間以上を確保

様式学管Ⅱ－２

学校経営実習Ⅰ　記 録

月　　日　　曜日	実習者【　　】　　実習場所【　　】
本日の実習課題	
実　　習　　内　　容	
・実習内容を簡潔に記述	
課題についての分析・考察等	・観察記録で終始せず、分析・考察を記述 ・実習後、速やかに大学担当教員に提出
指導教員（大学教員）コメント	

記入に当たって

様式学管２

令和　年度　　学校管理職臨床実習 学校経営実習Ⅰ（指定校）評価票　　岐阜大学教職大学院				
M1年	氏　名		専攻	大学院教育学研究科教職実践開発専攻（教職大学院）
指定校				
実習期間	令和　年　月　日（　）　～　令和　年　月　日（　）			
総出席日数　（　　）日			遅刻回数（　　）回（　　時間）	
欠席日数　（　　）日			早退回数（　　）回（　　時間）	
実習内容	水色網掛け部分は実習者が記述して準備します。			
提出物	□臨床実習報告書			

所見	「特記事項なし」または「意欲的な実習ぶりであった」程度の簡潔文で結構です					
種別	評　価　要　素		評　定			
学校経営実習Ⅰ	1	シャドーイングによる観察力	S	A	B	C　D
	2	メンティーとしての理解力	S	A	B	C　D
	3	リーダーシップについての考察力	S	A	B	C　D
	4	リーダーシップについてのプレゼンテーション力（訴求力、	S	A	B	C　D
総合評価	S（秀）　A（優）　B（良）　C（可）　D（不可）		メンターティーチャー	教頭先生氏名		
			メンターティーチャー			

「項目別評価」をもとに「総合評価」を就けてください。

複数の教頭先生にシャドーイングの場合

岐阜大学教育学研究科　教職実践開発専攻代表　様

以上のとおり評価しましたので報告します。

令和６年　　月　　日

認印・公印は必要ありません

ゴム印等でも可です

指定校名

校　　長

＊以下は大学で記入

＜判定＞上記の臨床実習について次のとおり判定する。（S、A、B、C は単位認定、D は単位認定不可））

判定	S（秀）　A（優）　B（良）　C（可）　D（不可）	（所見）

大学教員

評価基準（学校経営実習Ⅰ）　90ｈ：3単位

	S	A	B	C	D
シャドーイングによる観察力	モデル管理職（教頭）の職務行動を細部まで観察し、的確に記録できた。	モデル管理職（教頭）の職務行動を観察し、的確に記録できた。	モデル管理職（教頭）の職務行動を観察し、記録できた。	モデル管理職（教頭）の職務行動を観察し、概ね記録できた。	モデル管理職（教頭）の職務行動の観察が不十分であった。
メンティーとしての理解力	管理職（校長、教頭）へのヒアリングを多面的に行い、背景となる行動意図を的確に理解できた。	管理職（校長、教頭）へのヒアリングをもとに背景となる行動意図を理解できた。	管理職（校長、教頭）へのヒアリングをもとに背景となる行動意図を概ね理解できた。	管理職（校長、教頭）へのヒアリングをもとに背景となる行動意図を探ろうとしたが不十分であった。	管理職（校長、教頭）へのヒアリングが不十分であり、背景となる行動意図まで考察できなかった。
リーダーシップについての考察力	シャドーイングやヒアリングから「管理職に求められる資質・能力」について的確且つ多面的に考察できた。	シャドーイングやヒアリングから「管理職に求められる資質・能力」について的確に考察できた。	シャドーイングやヒアリングから「管理職に求められる資質・能力」について考察できた。	シャドーイングやヒアリングから「管理職に求められる資質・能力」について概ね考察できた。	シャドーイングやヒアリングが不足し、「管理職に求められる資質・能力」について考察できなかった。
リーダーシップについてのプレゼンテーション力（訴求力、伝達力）	管理職（教頭）のコンピテンシーについて、的確な考察をもとに説得力あるプレゼンテーションができた。	管理職（教頭）のコンピテンシーについて、考察をもとに的確なプレゼンテーションができた。	管理職（教頭）のコンピテンシーについて、プレゼンテーションができた。	管理職（教頭）のコンピテンシーについて、プレゼンテーションが概ねできた。	管理職（教頭）のコンピテンシーについて、プレゼンテーションが不明瞭であった。

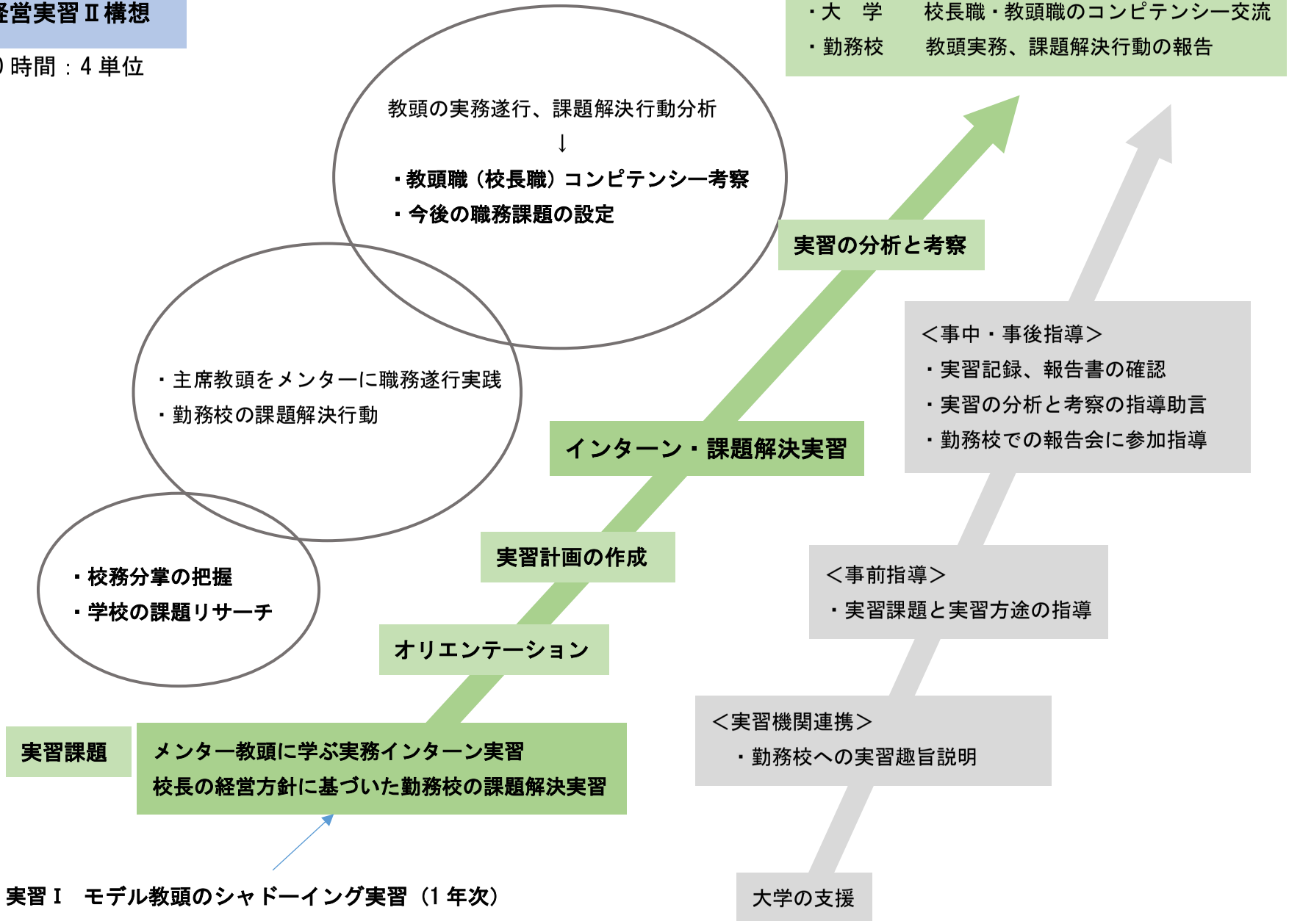
学校経営実習Ⅱ

4 単位

（120 時間）

学校経営実習Ⅱ構想

120 時間：4 単位



学校管理職養成コース（小・中・高）

「学校経営実習Ⅱ」（4～10 月）120h

報告会（勤務校・大学）

M1（1年次）

M2 （2年次）

教育行政実習 90h

学校経営実習Ⅰ 90h

学校経営実習Ⅱ　120h　（勤務校）

主席教頭をメンターとした職務実習

校長の経営方針に基づいた課題解決実習

分析・考察

勤務校での課題解決に取り組む「管理職」としての経営行動

開　発　実　践　報　告　の　取　組

＜主席教頭をメンターとした職務実習＞

以下の業務の部分的体験を通して教頭職の実務を身に付けるとともに各実務の法的根拠等について理解する。

管理的職務　・年度当初の提出書類、学校備付表簿、年間行事
・学校予算（備品、修繕等）、徴収金、要保護家庭
・防災計画、防火消防設備、薬品管理、通学路　等

指導的職務　・職員の指導・評価、主任層との連携、研究推進の示唆
・要援助児童生徒の把握と指導体制、いじめ未然防止

＜校長の経営方針に基づいた課題解決実習＞

勤務校の課題を自ら見いだし、校長の経営方針に基づいた解決を図ることを通して、校長と教頭の職務や責任等の違いについても考察を行う。

○労務管理　○人材育成　○教育課程・学力向上　○生徒指導　○服務規律・危機管理
○家庭・地域との連携　＜岐阜県教委「資質の向上に関する指標（校長）」より＞

◆校務掌理権：学校教育の管理、教職員の管理、児童生徒の管理、学校保健の管理、施設・設備の管理、その他教育委員会から内部委任された職務
◆所属職員監督権：服務義務（職務上・身分上の監督）　＜教育に関する各種法律より＞

「教育行政実習」「学校経営実習Ⅰ」「学校経営実習Ⅱ」を踏まえ、教頭像（校長像）を確立する

学校管理職養成コース（小中学校・高校籍）学校経営実習Ⅱ　実施計画例　120h　（4 単位）

No	研修名	研修場所	研修内容	研修の重点				
				企画	実践	理解	考察	プレ
1	オリエンテーション	大学院	実習の意義、インターン・課題解決実習の課題把握	○		◎		
2	実習計画の作成	大学院・勤務校	メンター（校長・教頭）との連携、実習計画の作成	◎		○		
3	インターン実習１	勤務校	主席教頭の指導を受けインターン実習		◎	○		
4	インターン実習２	勤務校	主席教頭の指導を受けインターン実習		◎	○		
5	インターン実習３	勤務校	主席教頭の指導を受けインターン実習		◎	○		
6	インターン実習４	勤務校	主席教頭の指導を受けインターン実習		◎	○		
7	インターン実習５	勤務校	主席教頭の指導を受けインターン実習		◎	○		
8	インターン実習６	勤務校	主席教頭の指導を受けインターン実習		◎	○		
9	課題解決実習１	勤務校	学校課題の抽出・設定			◎	○	
１０	課題解決実習２	勤務校	課題の分析と解決実施の計画作成	○			◎	
１１	課題解決実習３	勤務校	調査や職員組織への指導等の課題解決実習		◎			○
１２	課題解決実習４	勤務校	調査や職員組織への指導等の課題解決実習		◎			○
１３	課題解決実習５	勤務校	調査や職員組織への指導等の課題解決実習		◎			○
１４	課題解決実習６	勤務校	調査や職員組織への指導等の課題解決実習		◎			○
１５	実習考察１	勤務校等	教頭の職務内容、求められる資質力量考察	○			◎	
１６	実習考察２	勤務校等	教頭の職務内容、求められる資質力量考察	○			◎	
１７	勤務校報告会	勤務校	教頭の職務内容、求められる資質力量報告	○				◎
１８	教頭職務の分析１	研究室・勤務校等	インターン・課題解決実習から教頭職コンピテンシー考察	○			◎	
１９	教頭職務の分析２	研究室・勤務校等	インターン・課題解決実習から校長職・教頭職コンピテンシー考察	○			◎	
２０	成果報告会	教職大学院	実習の成果報告、校長職・教頭職コンピテンシーについて討論			◎	○	◎

様式学管Ⅲ－１

学 校 経 営 実 習 Ⅱ 計 画

実習者		実習校	学校

学　校　経　営　実　習　Ⅱ　【二年次　４～１０月】		
	事前	３／　　事前指導（２ｈ）
月		＊日時は「〇月中旬」等で可。 ＊時間数を（　）、事前事後を含めて計１２０ｈ以上を確保
	事後	／　　校内での報告会（２ｈ） １１／　　大学での成果交流会（４ｈ）　　・120時間以上を確保 【総時間数　　時間】

様式学管Ⅲ－２

学 校 経 営 実 習 Ⅱ 記 録

月　　日　　曜日	実習者【　　】　　実習校【　　】
実習課題	実習記録を記述した日付でOK

時期	実　習　の　概　要
「4月上旬」「6月中旬」とかの記述で可	・実施した実習内容とおよその時間を記述、時間数は計画表の時間数を下回らないこと

課題についての分析・考察等	・「教頭の職務実習」、「課題解決実習」のそれぞれで実習記録は３枚以上（計6枚以上）その３枚は続けて記述しても可とする。続けて記述する場合は「指導教員（大学教員）コメント」欄は3枚目の最後だけとする。 ・実習を通して校長職と教頭職の役割や責任、行動様式の違いについても考察をする。

指導教員（大学教員）コメント

（記入にあたって）　　様式学管３

令和　年度　　学校管理職臨床実習 学校経営実習Ⅱ（勤務校）評価票　　岐阜大学教職大学院				
M２	氏　名		専攻	教育学研究科教職実践開発専攻（教職大学院）
実習校				
実習期間	令和　年　月　日（　）　～　令和　年　月　日（　）			
実習の内訳				
実施した実習等の時数				時間
				時間
				時間
				時間
	合　計			時間
提出物確認	□臨床実習報告書			

網掛け部分は実習者が記述をして準備

所見	「特記事項なし」または「意欲的な実習ぶりであった」程度の端的な文章で結構です。					
種別	評　価　要　素		評　定			
学校経営実習Ⅱ	1	データ分析力	S	A	B	C　D
	2	課題発見力	S	A	B	C　D
	3	課題分析力				
	4	課題解決力	S	A	B	C　D
	5	プレゼンテーション力（訴求力、伝達力）	S	A	B	C　D
総合評価	S（秀）　A（優）　B（良）　C（可）　D（不可）		メンターティーチャー（教頭先生）		教頭先生氏名	

「評価要素５項目」とそれをもとに「総合評価」をつけください。

岐阜大学教育学研究科　教職実践開発専攻代表　様

以上のとおり評価しましたので報告します。

令和６年　　月　　日

認印・公印は必要ありません。

学校名・氏名はゴム印可

実習校名　学校名

校　長　校長先生氏名

以下は大学で記述します。（実習校の評価を加味しつつ、実習記録や大学での報告会を経て、大学にて最終判定をします。）

＜判定＞上記の臨床実習について次のとおり判定する。（S、A、B、C は単位認定、D は単位認定不可））

判定	S（秀）　A（優）　B（良）　C（可）　D（不可）	（所見）

大学担当教員

＊本書類の押印は必要ありません。

評価基準（学校経営実習Ⅱ）小中学校用　120h：4 単位

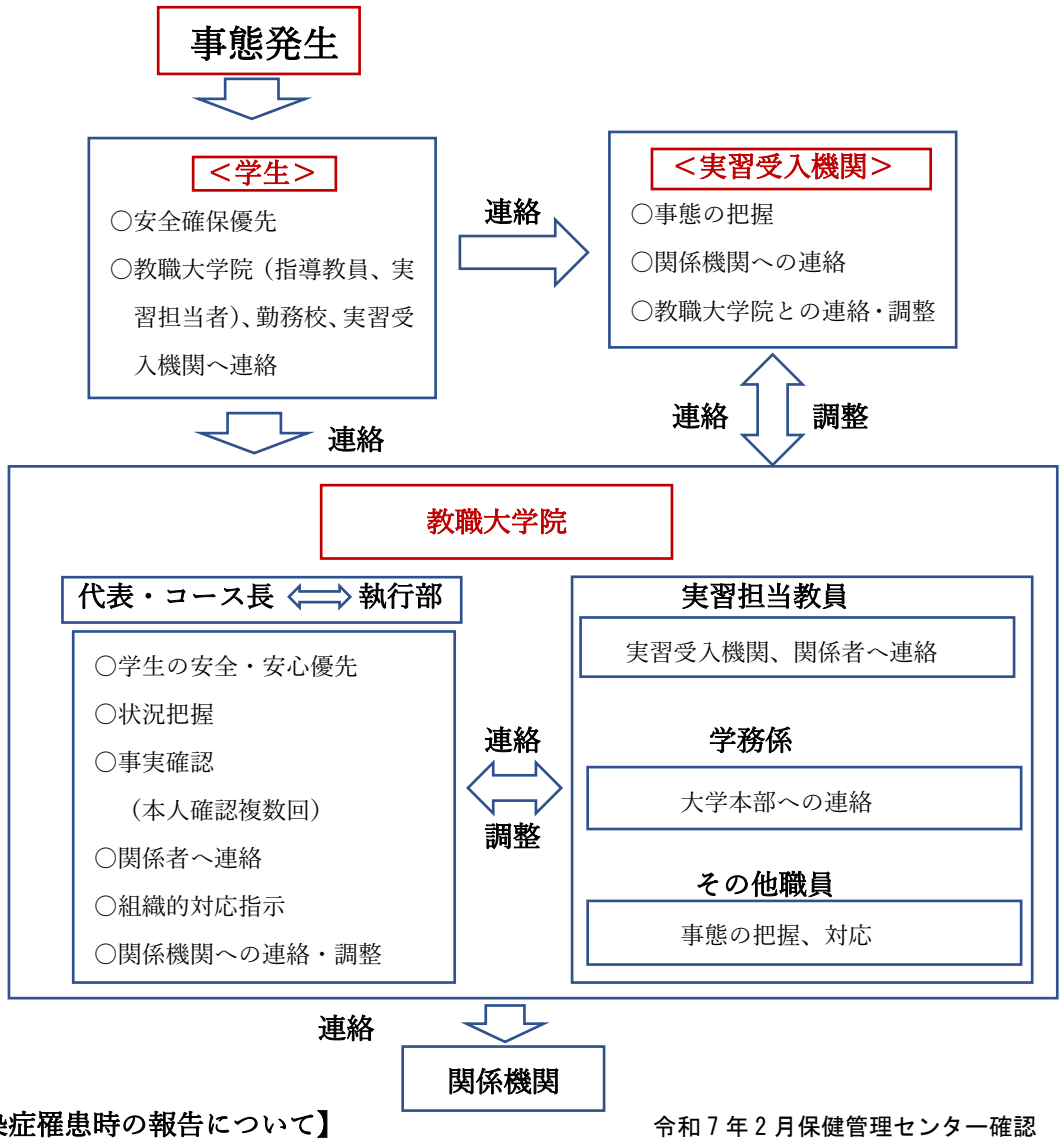
	S	A	B	C	D
データ分析力	情報収集や実態調査等をもとに勤務校の課題を的確に分析できた。	情報収集や実態調査等をもとに勤務校の課題を分析できた。	情報収集や実態調査等をもとに勤務校の課題を概ね分析できた。	情報収集や実態調査等を実施したが、勤務校の課題の分析はやや不十分であった。	情報収集や実態調査等が不足し、勤務校の課題の分析ができなかった。
課題発見力	エビデンスを示し、問題点を的確で訴求力がある報告ができた。	エビデンスを示し、問題点を的確に報告できた。	エビデンスを示し、問題点を報告できた。	エビデンスを示し、問題点の報告が概ねできた。	エビデンスが不明瞭であり、問題点の報告ができなかった。
課題分析力	問題解決に向け、現状分析（学校の強み・弱み）を活かした解決策を的確に説明できた。	問題解決に向け、具体的な解決策を的確に説明できた。	問題解決に向け、具体的な解決策を説明できた。	問題解決に向け、解決策について概ねの説明ができた。	問題解決に向け、解決策を説明できなかった。
課題解決力	教頭としての的確な判断や報告、職員への指導ができ、解決行動を遂行でき、成果を出した。	教頭としての的確な判断や報告、職員への指導ができ、解決行動を遂行できた。	教頭としての判断や報告、職員への指導ができ、解決行動を遂行できた。	教頭としての判断や報告、職員への指導を行い、解決行動が概ねできた。	教頭としての判断や報告、職員への指導が不足し、解決行動ができなかった。
プレゼンテーション力（訴求力、伝達力）	校長・教頭のコンピテンシーについて、的確な考察をもとに説得力あるプレゼンテーションができた。	校長・教頭のコンピテンシーについて、考察をもとに的確なプレゼンテーションができた。	校長・教頭のコンピテンシーについて、プレゼンテーションができた。	校長・教頭のコンピテンシーについて、プレゼンテーションが概ねできた。	校長・教頭のコンピテンシーについて、プレゼンテーションが不明瞭であった。

評価基準（学校経営実習Ⅱ）高等学校用　120h：4 単位

	S	A	B	C	D
データ分析力	情報収集や実態調査等をもとに、勤務校の課題を的確に分析できた。	情報収集や実態調査等をもとに勤務校の課題を分析できた。	情報収集や実態調査等をもとに勤務校の課題を概ね分析できた。	情報収集や実態調査等を実施したが、勤務校の課題の分析はやや不十分であった。	情報収集や実態調査等が不足し、勤務校の課題の分析ができなかった。
課題発見力	エビデンスを示し、問題点を的確で訴求力がある報告ができた。	エビデンスを示し、問題点を的確に報告できた。	エビデンスを示し、問題点を報告できた。	エビデンスを示し、問題点の報告が概ねできた。	エビデンスが不明瞭であり、問題点の報告ができなかった。
課題分析力	問題解決に向け、現状分析（学校の強み・弱み）を活かした解決策を的確に説明できた。	問題解決に向け、具体的な解決策を的確に説明できた。	問題解決に向け、具体的な解決策を説明できた。	問題解決に向け、解決策について概ねの説明ができた。	問題解決に向け、解決策を説明できなかった。
課題解決力	管理職への的確な報告、職員との連携ができ、解決行動を遂行でき、成果を出した。	管理職への的確な報告、職員との連携ができ、解決行動を遂行した。	管理職への報告、職員との連携ができ、解決行動を遂行できた。	管理職への報告、職員との連携を行い、解決行動が概ね遂行できた。	管理職への報告、職員との連携が不足し、解決行動が遂行できなかった。
プレゼンテーション力（訴求力、伝達力）	校長・教頭のコンピテンシーについて、的確な考察をもとに説得力あるプレゼンテーションができた。	校長・教頭のコンピテンシーについて、考察をもとに的確なプレゼンテーションができた。	校長・教頭のコンピテンシーについて、プレゼンテーションができた。	校長・教頭のコンピテンシーについて、プレゼンテーションが概ねできた。	校長・教頭のコンピテンシーについて、プレゼンテーションが不明瞭であった。

緊急時の対応

緊急時の対応　　令和７年３月改訂



【感染症罹患時の報告について】　　令和７年２月保健管理センター確認

学校保健安全法施行規則第 18 条「**学校において予防すべき感染症**」（https://hoken.gifu-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024/08/infection_list.pdf）に罹患した場合は速やかに報告し、出校停止基準に従うこと（岐阜大学保健管理センターの HP に PDF でも掲載されています（例：第２種として新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ））。人への感染可能性のある病原体を保有している期間が、出校停止期間に相当するため、自覚症状が軽くても遵守しなくてはならない。

◇ **報告先**　**【岐阜大学関係】**

⇒ **指導教員**：授業や実習の欠席について連絡し、合理的配慮について指示を仰ぐ。

⇒ **保健管理センター**：HP トップページ https://hoken.gifu-u.ac.jp/　の「感染症報告フォーマット（Forms）」へ入力する（入力しながら出校停止期間が確認できるようになっている）。

⇒ **教育学部学務係**：Tel：058-293-2206・2356　Email：edu-gakmu@t.gifu-u.ac.jp）

【学校関係】

⇒ **所属校の管理職**

気象警報発表時及び交通障害時における授業の取扱いについて

平成 27 年 2 月 17 日

教学委員会承認

岐阜大学（附属学校を除く。）では、「特別警報」(注)・「暴風警報」発表時及び公共交通機関の運行停止時の授業・試験の取扱いは、次のとおりとする。

１．気象警報発表時の取扱い

⑴ 岐阜市に「特別警報」又は「暴風警報」が発表された場合は，以下のとおり休講とする。

①午前６時３０分現在、「特別警報」又は「暴風警報」が発表されている場合，午前の授業を休講とする。

②午前１１時現在、「特別警報」又は「暴風警報」が発表されている場合，全日の授業を休講とする。

⑵ 授業開始以降に岐阜市に「特別警報」又は「暴風警報」が発表された場合もしくは気象状況の悪化が予測される場合の取扱いは，理事（教学・附属学校担当）の判断により決定する。

２．災害又はストライキ等による交通障害時の取扱い

災害又はストライキ等により，東海道本線の名古屋-大垣間，名鉄本線の名鉄名古屋－名鉄岐阜間が共に運休した場合又は岐阜駅からのバスが運休した場合は，　上記１に準じた取扱いとする。

３．上記によりがたい場合は，学長及び理事（教学・附属学校担当）が協議の上決定し，各学部へ通知する。

４．上記１～３により授業を休講する場合は，原則，本学のホームページに掲載するものとするが，１の（１）①の午前６時３０分現在については，ホームページへの掲載が遅れることが予想されるので，各自がテレビ・ラジオ・インターネット等で確認するものとする。

（注）「特別警報（気象）」は、警報の発表基準をはるかに超える大雨、暴風、暴風雪、大雪などに対して発表される